

◆令和 3 年度日本油化学会第 60 回年会開催にあたって

The 60th Annual Meeting of the Japan Oil Chemists' Society 2021



日本油化学会第 60 回年会実行委員長

瀬 瀬 守

COVID-19 が世界で猛威を振るい世界中で我々人類の日常生活, 生活様式, 文化・芸術に至るまですべてにおいて大きな変革が迫られる状況に追い込まれています。日本油化学会においても当然のように対応が迫られ当初予定しておりました令和 2 年 9 月 24 日(木)から 9 月 26 日(土)の 3 日間岐阜大学にて開催予定の日本油化学会第 59 回年会は, 延期となり, 朝倉会長を始め事務局の方々の実行力と迅速な行動力により令和 2 年 11 月 2 日(月)から 11 月 7 日(土)同日本油化学会第 59 回年会として Web 開催となる運びとなりました。テーマは, 「奮勇を奮わず, 正しく恐れ, 使命を果たす」です。この Web 開催年会は, コロナに負けない力強い日本油化学会の姿だと思います。ぜひとも本学会初めての来る 11 月 2 日からの Web 会議にて積極的に参加し議論いただき成功裏に終了することを切に願っております。それは会員皆様方ひとりひとりのご協力と参加が不可欠でありこの Web 開催の年会から多くのこと学び学会の遺産としなければなりません。コロナウイルスは, インフルエンザウイルス同様夏にはいったん収束し, 冬に再度猛威を振るうかとも考えられましたが, 多くの期待を裏切り夏には第 2 波が到来し来年度でさえどうなるか予測困難でまだまだ COVID-19 が沈静化するかどうか予断を許しません。ワクチン開発や集団免疫獲得が実現することを期待して来年度の年会を岐阜で開催したいと思えます。

改めて岐阜で開催する日本油化学会第 60 回年会は, 令和 3 年 9 月 9 日(木)から 9 月 11 日(土)に開催予定です。テーマは, 「歴史ある東海から油化学の新時代へ」。岐阜大学(岐阜市柳戸1-1)のキャンパスで開催する予定です。年会でせっかく岐阜にお越しいただきますので少し岐阜の紹介をしたいと思います。令和 2 年の NHK の大河ドラマは, 「麒麟がくる」で明智光秀を中心とした戦国の英傑が活躍した激動の時代を描いています。前半生に謎の多い光秀像をとっても興味深く描かれており, この文章がオレオサイエンス誌に掲載される 10 月には大河ドラマ「麒麟がくる」で信長や秀吉とともに活躍する光秀の姿が放映されていることと思えます。また, JR 岐阜駅前には初めて見るとハッとするような神々しく立派な金の信長像が日本の明るい未来を見つめています。年会等で岐阜に来られる際には岐阜の玄関口のこの金の信長像をぜひとも見てみてください。日本油化学会第 60 回年会では, 一般市民も聴講可能な 2 つの講演会の企画を計画しております。教育講演「(仮)長良川の鵜飼の調査研究」では, 織田信長が庇護しおもてなしとして用いたとされるぎふ長良川鵜飼のお話をして頂く予定です。さらに, 京都に近く日本の中心地に位置する岐阜市近郊は, 戦国時代全国統一のための足掛

かりとなる要衝であり様々な歴史絵巻が繰り広げられています。その岐阜と戦国時代の関わりや大河ドラマで取り上げられた興味深い時代背景を特別講演「(仮) 斎藤道三・織田信長と岐阜市」にて、お話いただけるようお願いしております。どちらも岐阜市役所にお勤めの歴史学者の岐阜市ぎふ魅力づくり推進部文化財保護課の講師の先生をお願いしております。さらに、年会初日の晩、希望者には宮内庁に所属する鶴匠さんたちによるぎふ長良川鶴飼を実際に体験していただけるよう企画しております。このぎふ長良川鶴飼を実際に体験し、鶴飼そのものを体験するとともに鶴飼乗船場やその周りの金華山の岐阜城、岐阜公園内の信長の居城跡・大河ドラマ館、日本三大仏のひとつに数えられ乾漆仏としては日本一の大きさを誇る岐阜大仏(正法寺)、長良川温泉、電信柱が地下に埋められ和傘や岐阜提灯や水うちわやアユ料理店などが歴史情緒を醸し出している河原町の風景などを目に焼き付けたうえで、最終日の教育講演、特別講演を聞いていただければ、講演内容がより身近に感じられ興味を持って講演を聞いていただけるものと確信しております。このように岐阜ならではの魅力が伝わる年会になるよう実行委員長として精一杯務める覚悟ですので会員の皆様のご理解・ご協力によりひとりでも多くの参加者を集まる年会となるよう切にお願いする次第です。

東海の歴史を振り返りますと、戦国時代の3英傑などが美濃や尾張三河を駆け巡った歴史絵巻は周知の事実です。また、古くからモノづくりの中心地である東海地区にある自動車などの製造業および油化学関連の各社の歴史は日本の油化学の発展にこれまでも大きく貢献してまいりました。本年会において明るい未来・新時代に向けた油化学および本学会のますますの発展を願って第60回年会を開催したいと思っております。日本油化学会の発展、第60回年会の成功に向けた皆様のご協力を切にお願いしたいと思います。